

2025年

6月

南風

ふれあい南伊豆ホスピタル

第262号

● 当院では、患者様が地域で安心して暮らしていける為の支援をすすめています ●

編集・発行 医療法人社団 辰五会 ふれあい南伊豆ホスピタル 〒415-0151 賀茂郡南伊豆町青市 848 TEL 0558-62-1461 FAX 0558-62-0510



当院では患者さまに、公認心理師による心理検査を必要に応じて行なっています。病院での検査というと、皆さんはどのようなものを思い浮かべますか?血液や尿を採取する、機械で体の中の映像・画像を撮る…といったところでしょうか。

心理検査は、それらとは様子が異なります。簡単に言うと、「患者さまの内面にあるものを、機械を使わずに調べる・測る」ものです。当院に来られる患者さまは何らかのこころの不調を抱えている方が大半を占めるため、**不調の原因や強さ**に接近すべく、**決まった道具**を用いて検査していきます。

何を測るか

- 記憶力の低下（物忘れの進み）具合
- 不安や気分の落ち込みの強さ
- 性格の傾向
- 精神の発達とその偏りの程度

…など

どのように測るか

- 対話中心のQ&A
- 質問紙
(はい／いいえ／当てはまる／当てはまらない…)
- 絵を描く、色をぬる

…など

心理検査で分かるのは、患者さまの「今の状態」です。例えばAさんとBさんがある検査で同じ点数だったとしても、個々の生活環境が違えば点数の意味合いも違う色を帯びてきます。心理師は検査中の様子や受け答えの仕方などを観察し、必要に応じて対話しながら、患者さまの「個人としての特徴」に接近しようと試みます。とはいえ、場合によっては接近されることを望まれない（周囲に促されて渋々検査を受けることになった）方も居られますので、検査をやり遂げるため強引に踏み込むことのないよう、心理師は心がけています。

◆ 心理検査と心理テストは別物?

大ざっぱに言えば、「ほぼ同じ」と捉えていただいてもいいでしょう。「心理テスト」のほうが、本やネットなどで自分でも気軽にやってみることができるのが含まれる印象です。それをやってみることで、ご自身の傾向をある程度知ることできるでしょう。気軽さ・手軽さがある反面、上記の「今の状態」を表す傾向がより強くなるので、結果を鵠呑みにせず、必要以上に悲観的にならないようにしましょう。



視野を広げて物事を見るために



◆ 何に見えますか？

これは心理検査（テスト）ではありません。これまでに見たことがある方も多いことでしょう。壺（黒）と向かい合う2人の横顔（白）がありますね。ゆっくり落ち着いて見れば両方浮かび上がってくるはずですが、気持ちに余裕がない時にはどちらかにしか見えないこともあるようです。

後から見えたほうは、当り前のようにそこにあるので却って忘れられがちな、でも全体の中では大事な一部分なのです。以下の2つの例も参考になさってみてください。

◆ 例 1

Aさんは潔癖なところがあり、家の外のあらゆるところを素手で触れません。外出時は真夏でも手袋を着け、カバンの中の筒型容器のウェットティッシュは数日で使い切ります。しかし家族は、Aさんが片付けが苦手です。自室もかなり散らかっている様子を気にかけています。

- ▶ Aさんは自身の体、特に手先が汚れることを過度に恐れていて、それ以外の部位に注意・関心を払う余裕がなくなっているようです。

◆ 例 2

Bさんは「自分が周りからどう思われているか」がとても気になり、急な予定変更や大きな物音が苦手で、常にビクビクしながら日々を過ごしています。ネットのチェックテストで自分が「HSP（とても敏感な人）」に当てはまるのではないかなと思うようになりました。しかし友人はBさんが時々、他者に嫌な思いをさせる言葉を口走ってしまう様子と、HSP という自己診断に矛盾を感じています。

- ▶ Bさんは周りから自分自身へ向かう視線に注意の大半が向けられ、「自分の言動が周囲に与える影響」について思いを向ける余裕が持てずにいるようです。

（例 1・2とも実際の症例を組合わせ、改変して掲載しています）

※当院の心理検査は、心理師が主治医の指示を受ける形で実施しております。

文：神谷 正光（公認心理師）



紫陽花にはなぜか湿気が似合いますね



ふれあい南伊豆ホスピタル
☎0558-62-1461



2025年 6月発行 Vol.262

【監 修】山本 善治

【構成・編集】神谷 正光

【デザイン】F&Y

【作業協力】支援センターふれあい
利用者の皆さん
ふれあい南伊豆ホスピタル
広報委員会

